

江戸時代の初期「かぶき踊」とよばれるものが誕生。元祖は出雲の阿国という女性で、念仏踊りや狂言小歌を取り入れ踊っていた。これまでの笛や鼓の他にあたらしく三味線を伴奏音楽に加えた。これに歌舞伎が、幕府から禁止を受け、若衆かぶきを経て男が女に扮する女形の出現による舞踊の隆盛となります。幕末の七代目團十郎や、明治の九代目團十郎による、船弁慶や勸進帳が上演され、また「我が国の舞踊を世界的な視野から見直さねばならない」と「新楽劇論」を坪内逍遙博士が発表。

明治三十七年そのモデル作品として「新曲浦島」を世に問います。江戸時代から続く「台地」藤間家は、新楽劇論にも深く関与します。重要無形文化財「歌舞伎舞踊」の保持者に認定(1985年)されました。藤間藤子の養母藤間勘八からこれらの時代を引き継ぎ、現在藤子の孫にあたる藤間蘭黄が継承、おすめ歌舞伎は、藤子から三代にわたり歌舞伎舞踊の伝承を受け継ごうとしています。

日本芸術文化振興会(国立劇場) 顧問 織田紘二

長唄 新曲浦島

昭和十七年、藤子はこの曲に、「素踊り」で上演すべく振り付けた。一番身体が効いた頃の振付。身体全部をたぶりと、舞台を大きく使って、大海原のうねり、流れる雲から、そこに暮らす漁民の息遣いまで豊かに表現している。

衣裳かつらの力を借りずに、身体だけで情景を描き出す素踊り。釣竿を担いで登場するだけで、そこが何処なのか、どんな天気なのか伝えないければならず、その釣竿が、時に海になり、波になる。扇子一本で、夕焼け空の移り変わる様を見せる。果てはその扇子を海に投げて、波間に漂わせる。やがて踊り手は、漁を終えて、苦屋へ帰る漁師となる。天候を気にしているかと思えば、湊に吹き渡る風となり、再び漁師に戻って船に乗る。遠くの海に仲間の船を見付けて声をかけ、沖に漕ぎ出す。小さい波が立ち始め、やがて大きなうねりを伴う夕嵐となる。「役を踊る」歌舞伎舞踊の要素と、扇子一本で森羅万象を表現する明治以来進化させてきた日本舞踊の技法の融合である。

藤間蘭黄

長唄 藤娘 一八二六年初演

本名題「歌へすく 余波大津絵(かえずがえすおなごりおつえ)」大津絵(江戸時代から大津の名産として知られる民族絵画)の絵をもとにした歌舞伎舞踊です。近江八景を織り込んだその歌詞に沿って、嫉妬する娘の恋心が表されていきます。初演当時流行った端唄「潮来」が挿入され、美しい菖蒲が咲く中を小舟で進む様子が描かれます。

清元 保名 一八一八年初演

義太夫節の『芦屋道満大内鑑』の阿倍の保名が、恋人神の前に死別し形見の小袖を抱いて、恋人の幻を追う。歌舞伎の舞踊音楽の中でも、当時、時代の新しい影響を受け、曲調も歌詞もこれまでにない心表の表現は、退廃美の中に純真な美しさを感じ、小袖を探す間取り、早間になっての小鼓との間、気持ちの浮き沈みの抑揚。的確な振りが、優美な気品さという「姿」を伝えていきます。

清元 藤

幕末から大正時代に活躍した二世藤間勘右衛門振付。二世勘右衛門は、明治の中頃、九代目團十郎に迎え入れられ、新歌舞伎十八番「春興鏡獅子」「素襖落」、坪内逍遙の新歌舞伎「お夏狂乱」等を手がけ、今に受け継がれています。

能 歌舞伎

長唄 船弁慶 作者・河竹黙阿弥

西国へ落ちていく、義経一行が大物浦から船に乗る。静御前はここまで義経に従ってきたがここで別れとなり、静は義経に故事を伝え頼朝との和解の時を祈ります。やがて、船の用意が整います。この度は、能楽高安流御宗家の弁慶により、特別な演出での上演となります。

魚売りの女が現れ屋島の戦いの様子を語ります。語り終えると何処ともなく消えていきます。船が、海上に出ると、空に黒雲、風向きが変わり住吉の浜に打ち上げられます。不思議なことに、西国で滅びた平家一門の怨霊が海上に浮かび上がります。なかでも、平知盛の怨霊は、薙刀を小脇に抱え、凄まじい形相で、義経一行に向かって襲いかかるのでした。

【お切符ご購入・お問合せ】

名古屋能楽堂 電話 052-231-0088 (名古屋市中区三の丸1-1-1)
ちけつとびあ 電話 0570-02-9999 (Pコード 446-294)
芸文プレイガイド 電話 052-972-0430
むすめかぶき 電話 052-323-4499 メール info@musumekabuki.com
〒460-0012 名古屋市中区千代田3-10-3

出演者

【前売り】

指定席 5,000円・自由席 3,500円

【当日券】

指定席 5,500円・自由席 4,000円・学生 2,000円

会場 名古屋能楽堂

名古屋市中区
三の丸1-1-1

お申し込み用紙 [ファックス 052\(323\)4575](mailto:info@musumekabuki.com)

お名前: _____

住所: _____

電話: _____

ファックス: _____

指定席 5,000円 × 枚 = 円

自由 3,500円 × 枚 = 円

(学生は当日、窓口にてチケットを販売します)

合計 枚 円